

「ののちゃん」は新聞4コマまんがの代表格で、6月6日には6,000回を数えました。「ののちゃん」の前身「となりのやまだ君」が始まったのは、1991（平成3）年10月10日でした。97（平成9）年4月1日に「ののちゃん」と改題して、主人公が兄・のぼるくんから妹・のの子ちゃんに変わり、現在に至っています。

子どもが主役の4コマまんがでは、ほとんどの場合、すべての漢字にふりがなが付けられていますが、「ののちゃん」では、易しい漢字にはふりがなが付けられていません。これも、ひとつの配慮だと思われます。一方、ほとんどの4コマまんがは新聞の後ろから2ページ目、つまり左側の社会面の左上に置かれており、「ののちゃん」もそうでしたが、現在は右側社会面の右上にあります。調べてみると、2013年4月1日から今の位置に変わったようです。なぜ変えたのでしょうか。

さて、4コマまんがとしての「ののちゃん」の特徴を書き出してみます。

1. どの新聞まんがにも共通していますが、まんがの舞台となっている特定の場所はありません。「城山公園」「天狗山」「天神山」などは架空の地名です。「たまのの市」ももちろん架空の市です。ののちゃんの通う学校も「第3小学校」としているだけです。ただ、ののちゃんの家は引き戸で、隣のキクチくんの家との境は板塀、町並みに3階建て以上の建物が見当たりませんので、昭和30年代の雰囲気を残しているといえそうです。

2. 家族、地域、学校という3つの生活の場で、個性豊かなキャラクターが現代的な問題にも対処しながらたくましく生きる様子が、いきいきと描かれています。今の多くの子どもたちに欠けているものが、「ののちゃん」にはあります。

3. 面白い4コマまんがは、3コマ目までと4コマ目との落差の大きい「ドンデン返し型」と、話の流れにメリハリのある「起承転結型」が多いですが、「ののちゃん」にもこの2つの型が目立ちます。《次回へ続く》

(鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問)